



# 道徳通信

大田区立馬込第三小学校

東 山 良 彦

道 徳 部

令 和 3 年 6 月 2 9 日

第 2 号

6月も終わりになり、一気に暑くなりました。蒸し暑い日もあれば、雨で寒い日もあります。体調を崩さないように、気を付けていきたいですね。さて、今回は、道徳の授業について紹介を行います。道徳の授業は予定等で変更がある場合もありますが、週に一度あります。「国語と道徳はどう違いますか。」と聞かれることがあります。物語文を中心とした授業であることや、登場人物の気持ちを考えることは似ています。ただ、道徳の場合は、国語とは違って、何度も教材を読んだり、音読をしたりすることはありません。

国語は、教材の文章を何度も読む中で、文章の叙述に基づいて読み取りを行います。文章の内容を理解することが大切です。では、道徳科はどのような学習を行うのでしょうか。どのようなことを大切にしているのでしょうか。それは、子供たち一人一人の考え方や感じ方です。

低学年の教材に「はしの上のおおかみ」という話があります。

一本橋をおおかみが渡っています。向こう側から、きつねがきました。

「こちら、もどれ。もどれ。」といて、きつねを追い返します。

この意地悪が楽しくなり、いろいろな動物たちに「こちら、もどれ。もどれ。」と言って追い返します。

この中で、動物たちに「こちら、もどれ。もどれ。」と言ったおおかみの気持ちを考えさせる場合があります。もし、国語の授業で行うとしたら「この意地悪が楽しくなり」という文章の叙述に着目して「意地悪は楽しいな。」「もっと、やってみよう。」「俺が一番偉いのだぞ。」などの意見が出てくると思います。もちろん、道徳の授業でも、上記のような考えも出ますが、子供にとっては、「ちょっと、かわいそうだな。」「やりすぎちゃったかな。」「お母さんに怒られたらどうしよう。」などの考えが出てくる場合があります。それは、普段の生活の中で、意地悪をしたとしても、相手が困っている様子を感じることやお家の人に怒られてしまう経験があるからです。国語の授業では、教科書に書かれている文章が基になり、読んだり考えたりします。道徳の授業では、子供たちが普段の生活の中で考えたことや感じたことが表れてきます。この点が、国語とは大きく異なるところです。



さて、道徳科の教科書は「きづき」「まなび」の2冊あります。「まなび」の中には、「お家の人と考えてみましょう。」という欄もあります。1年生「個性の伸長」の学習を行ったときに、「お家の人にあなたのよいところをたくさんかいてもらいましょう。」というページがありました。「お家の人に書いてきてもらってくださいね。」と話す、素敵なメッセージがたくさん書いてありました。読んでいて思わず笑顔になってしまいました。きっと、お子さんも嬉しかったと思います。お子さんにとって、一番の理解者であるのだからと改めて感じました。



## 背中の教育

ある雑誌の中に、「背中の教育」という文章が掲載されていました。御紹介します。

子供たちは、大人の背中をじっと見ている。その姿から、自分の役割に心を込めて取り組むことの大切さを子供は自ら学ぶのである。「大人の背中を見て育つ」とも言えるだろう。このような背中には三つの力がある。

### 【安心感】

外でケンカをして泣きながら帰ってきた子供も、親の背中を見るとなぜか、ホッとする。特別に声を掛けてもらわなくても、明るくせっせと働いている背中を見ただけで不思議と安心する。元気になって、その子供はまた外へと飛び出していこう。このように、子供からすると「親の背中」には何とも言えない「頼りがい」を感じるのである。

### 【モデル】

自らの仕事を黙々と果たしている大人の背中は、子供にとっては、口やかましく生き方を指図されるよりも、大人自らが懸命に生きている姿こそが人生における最高の指針となる。よくも悪くも、子供は大人の背中から自らの「生き方」を学ぶのである。

### 【自由の保障】

いつも指図されたり監視されたりして、正面から大人ににらみつけられていれば、子供は委縮するだろう。しかし、背中を見せている大人からは、子供はいちいち指図されたり干渉されたりはしない。しかも、そのような大人の背中からは、子供に対する信頼感がにじみ出ている。そのような中から子供は「信頼に応える」ということを学ぶのである。

参考文献 2021, 7月号 月刊誌「道徳と特別活動」(子供と共に学ぶ道徳教育より)

私たちの背中は、子供たちにとって、どのように見えているのでしょうか。子供たちは、大人たちを見えています。子供たちにとって「こんな人になりたい。」「すてきな。」と思われるような存在でありたいなと願うばかりです。

道徳科の授業は週に1時間ですが、子供たちにとって、全てが道徳教育につながっていると感じています。学校での生活、家庭での生活、地域社会での生活など、子供たちを取り巻く環境は様々です。子供たちも、そして、われわれ大人たちも多くのことを考えたり、時には迷ったり悩んだりしながら、より良い生き方を探していきたいですね。

